

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	までいタイムズ
支援対象者・エリア	福島県南相馬市小高区
企画開催地	小高交流センター
企画名称	‘までい’なひとときを
実施期間	2020年11月、2021年3月

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

3月11日の震災時、画面越しに起きている被災地の状況を、ただただ何もできずに私たちはぬくぬくと日常を過ごしながら観ていました。未だにあのゴーゴーと押し寄せる波や海水の渦の音が脳裏に存在しています。たまたま私たちがあちらでなかったこと、いつ自分に降りかかるかわからない、と思ったとき微力ながら何か出来ないかと居ても立っても居られませんでした。そんなときにパルシステムで“パラソルカフェ”という現地に行く募集を見つけ応募したのですが、残念ながら参加できませんでした。その後、その取り組みは無くなってしまい現在のパル未来花基金が始まりました。今、自分たちにできること。私自身“歌は心のビタミン”ということをもっとに、出前 コンサートや老人ホームでのライブ活動、知的障害者施設での音楽指導をライフワークとしています。また知り合いにはアロマセラピストやフラワーアレンジメント、アコーディオン演奏者、俳優、ダンサーがおり、芸術を生かしたアートフルな活動が私たちにはできないかと思ったのが始まりです。震災から 10 年が経ちますが、まだまだ元の生活に戻れない被災地の方々、避難解除が出されたにもかかわらず余儀なく仮設生活を継続しているの方々、復興住宅に移ってから他者との交流が途絶えより孤独な日々を過ごされている方がいるのが現実です。“震災を忘れない!” というスローガンは、言葉だけではなく現地訪問が何より重要だと確信しています。目の前の厳しい現実から少し離れ、気分転換のひとときを過ごしてもらいたい。たわいもない会話やちょっとしたことで一緒に笑ったり、そんな何気ない時間こそが貴重だということ。「までい」とは、福島の方で「手間暇を惜まず」「心を込めて」「丁寧に」「ゆっくり」といった意味があります。私たちはゆっくり、丁寧に、これからもずっと被災地を忘れずに支援を続け、かけがえのない時間(タイム)を一緒に過ごしていきたいです。私たちにしかできないやり方で、今後も活動は続いていきます。これまでは集会室や周辺住民に向けた限定的な取り組みであったため、中々私たちの活動が周知されませんでした。19年度から公共施設(小高交流センター)に場所を変えたことで、若い世代や親子といった活力のある方々とのつながりができました。現地で次の世代を担う、未来を向いている人たちにアプローチすることで、そこから地域に住む人たちに広がっていくと感じました。私たちがその火付け役として、住民同士の交流の場を提供していきたいです。そのためには訪問を継続していくことが大切なことだと思っています。

までいタイムズ

「までい」とは・・・

手間暇を惜まず、心を込めて、丁寧に

といった意味の福島の方言

私たちなりのアプローチでリラックスした

ひと時を過ごしてもらおう、という地域の人に

寄り添ったアート活動を目指しています。



※本レポートに掲載された写真はパルシステム東京ホームページ等で公開させていただきます。予めご了承ください。